

Keiba Global Front Line

競馬グローバル・フロントライン

競馬の最前線で活躍する馬や人を紹介致します



合田 直弘

5月6日にケンタッキー州のチャーチルダウンズで行われた第143回ケンタッキーダービー(d10F)は、オールウェイズドリーミング(牡3、父ボディマイスター)が後続に2.3/4馬身差をつけて優勝を飾った。1番人気だった同馬のオッズが5.7倍も付いたことからわかるように、確固たる主役がおらず「近年にない混戦」と見られていたのが今年のケンタッキーダービーだったが、蓋を開けてみれば、前半2番手から向こう正面で早くも先頭に立ち、直線で後続を突き放すという正攻法の競馬を見せたオールウェイズドリーミングの力が、1頭だけ抜けていたことが実証されることになった。次走のG1プリーケネスS(d9.5F)も無事に通過すれば、G1ベルモントS(d12F)に挑むエピカリス(牡3)の前に立ちはだかる存在となる同馬を、今月のこのコラムの主役としている。

G3ラスフローレスS(d6F)勝ち馬で、G1プライオレスS(d6F)2着の実績もあるアバヴァーフエクションの10番仔として、14年2月25日に生まれたのがオールウェイズドリーミングだ。同馬の7歳年上の半姉ホットディキシーチック(父ディキンヌニオン)は、サラトガの2歳G1スピンウェイS(d7F)勝ち馬である。ちなみにアバヴァーフエクションの初仔となる父シャイアンツコーズウェイの牡馬は、05

5月6日にケンタッキー州のチャーチルダウンズで行われた第143回ケンタッキーダービー(d10F)は、オールウェイズドリーミング(牡3、父ボディマイスター)が後続に2.3/4馬身差をつけて優勝を飾った。1番人気だった同馬のオッズが5.7倍も付いたことからわかるように、確固たる主役がおらず「近年にない混戦」と見られていたのが今年のケンタッキーダービーだったが、蓋を開けてみれば、前半2番手から向こう正面で早くも先頭に立ち、直線で後続を突き放すという正攻法の競馬を見せたオールウェイズドリーミングの力が、1頭だけ抜けていたことが実証されることになった。次走のG1プリーケネスS(d9.5F)も無事に通過すれば、G1ベルモントS(d12F)に挑むエピカリス(牡3)の前に立ちはだかる存在となる同馬を、今月のこのコラムの主役としている。

G3ラスフローレスS(d6F)勝ち馬で、G1プライオレスS(d6F)2着の実績もあるアバヴァーフエクションの10番仔として、14年2月25日に生まれたのがオールウェイズドリーミングだ。同馬の7歳年上の半姉ホットディキシーチック(父ディキンヌニオン)は、サラトガの2歳G1スピンウェイS(d7F)勝ち馬である。ちなみにアバヴァーフエクションの初仔となる父シャイアンツコーズウェイの牡馬は、05

年のキーンランド9月1歳市場に上場されて主取りになった後、日本に輸入されてヨウソロという競走名を与えられ、大久保龍志厩舎からデビューして4戦1勝の成績を挙げている。

オールウェイズドリーミングの父は、12年のG1アーカンソーダービー(d9F)を9.1/2馬身差で圧勝したボディマイスター(父エンパイアメーカー)だ。ケンタッキーディープシーインにわたって供用された後、エンパイアメーカーが繫養場所を日本に移したのは11年だったから、ボディマイスターは父が不在となった後に北米に出現した大物の1頭であった。アーカンソーダービーの後、G1ケンタッキーダービーに駒を進めたボディマイスターは、半マイル通過=45秒39、6F通過=1分9秒80といいうハイラップを刻んで逃げ、最終的にはアイルハヴァナザーに捕まつたものの2着を死守。このレース内容が同馬の評価を大きく高めることになった。オールウェイズドリーミングは、13年からケンタッキーのワインスターファームで種牡馬入りしたボディマイスターの、初年度産駒の1頭となる。

15年のキーンランド9月1歳市場にて35万ドルで購買された同馬は、ドミニカ・スケッティーノ厩舎に入厩。2歳7月にデビューシー、ベルモントパークのメイドン(d5.5F)3着、サラトガのメイドン(d6F)2着の成績を残した後、トップ・プレイヤー厩舎に転厩している。年が明けた1月25日にタンペベイダウンズのメイドン(d8F40Y)を11.1/2馬身差で制してデビュー3戦目で初勝利を挙げると、続くガルフストリームパークの条件戦(d9F)も4馬身差で快勝。重賞初挑戦となつたのが4月1日にガルフストリームパークで行なわれたG1フロリダダービー(d9F)で、ここでも後続に5馬身という決定的な差をつけて勝利し、重賞初制覇を達成した。G1で飾っている。続くケンタッキーダービーも制したオールウェイズドリーミングは、3歳になつてからは負け知らずで、トッド・ブレッチャーの管理下に入つてからも無敗の快進撃を続けているのである。

ボディマイスターは10Fまでしか経験がなかつたが、その父エンパイアメーカーは03年のベルモントS勝ち馬で3冠馬のアメリカンブエイローは、エンパイアメーカーの直仔パイオニアオヴザナイルの産駒だから、オールウェイズドリーミングの父ボディマイスターの、初年度産駒の1頭系は12Fを乗り切るスタミナを秘めている。しかし一方、前段で御紹介したように、同馬の牝系はスピード色が圧倒的に濃い。オールウェイズドリーミングが12Fを乗り切れるかどうか、血統的にはかなり微妙な線にあると筆者は見ていく。